

在家仏教講演会 開催ご案内

東京 時間：午前10時～11時30分
会場：中野サンプラザ7階研修室10（中野区中野4-1-1）
会場整理費：700円 お問合せ：03-6684-6692

- 3月9日(土) 通俗道徳と浮世の思想 島藺進先生 上智大学教授
3月23日(土) 罪としての労働と慈悲行としてのほたらく 保坂俊司先生 中央大学教授
4月13日(土) 迷いからの脱出-私のオウム事件 楠山泰道先生 大明寺住職・日本脱カルト協会顧問
4月27日(土) 迷いからの脱出 山崎龍明先生 武蔵野大学名誉教授
5月11日(土) 迷いからの脱出 福田亮成先生 大正大学名誉教授
5月25日(土) 迷いからの脱出 田島照久先生 早稲田大学名誉教授
6月8日(土) 迷いからの脱出-死生学へのいざない 菅原伸郎 在家仏教協会理事長
6月22日(土) 迷いからの脱出-無所得の救い 竹村牧男先生 東洋大学学長

大阪 第3金曜日 午後3時～4時30分
会場：堂島アバンザ5階または14階（北区堂島1-6-20）
会場整理費：500円 お問合せ：06-6346-7000

- 3月15日(金) 釈尊から親鸞聖人へ 丘山新先生 浄土真宗本願寺派総合研究所所長
5月17日(金) 演題未定 田代俊孝先生 仁愛大学学長
6月21日(金) 演題未定 真城義麿先生 真宗大谷派善照寺住職

いのち尊し

第23号
いのち尊し
2019年3月1日
公益社団法人 在家仏教協会
〒101-0062
東京都千代田区 神田駿河台3-3
五明館ビル202号
TEL 03-6684-6692
FAX 03-6684-6709

「信心を相続するよじり」

福田 眞（元会社役員）

私は広島で生まれ育った。浄土真宗本願寺派の門徒の多いところである。祖父母は熱心な安芸門徒であった。両親もそれを受け継いでいたので、子供のころからお仏壇の前に座る習慣はあった。祖父が在家仏教協会の加藤辨三郎元理事長の知遇を得ていたことから、私も同氏の警咳（けいがい）に接したことがある。その頃の協会の集いの一つでは、元理事長が自ら「教行信証」の解説をされていた。大手町の一室で十人足らずの寺子屋のような雰囲気であった。「なるべく原典にあたるのが有難い」というようなことをおっしゃっていたことを今でも覚えている。もう四十年前のことである。

二回の勤務を合わせてアメリカで十二年過ごした。それも日本人のあまりいない職場が主戦場であった。当然、十人十色どころの話ではない。異文化との格闘である。いつも強く見せねばならない「ポジティブ病」のアメリカでは湿った無常感に浸りにくい。母が荷物に忍ばせてくれた阿弥陀像こそワシントンやニューヨークの部屋に安置してあったが、ときおり手を合わせるぐらいのことであった。家族とお経をあげるのもお正月など数えるほどで、仏縁が辛うじて切れなかつた程度である。日本に帰ってから組織の中で階級が上がるにつれ、いろいろ悩みも増える。そういう時に手にしたのは仏教ではなく、いわゆる処世の学問であった。代表的なのは中国の古典である。サラリーマンは自分の置かれたポジションや人の見る目が気になる年齢がある。思

うに任せぬことも多い。そういう時に「人知らずして憤らず」とか「得意淡然 失意泰然」といった言葉が胸に響く。組織を動かすという意味では儒家より法家が役に立つというところで韓非子あたりもつまみ読みしたが、心が荒れる。ということでも儒仏道混然とした書といわれる「菜根譚」を座右の書とした時期もあった。

仏教を忘れていたわけではない。ただ、目先の事に振り回され、仏教は「そのうちに」と後回しにされてきた。それでも「最後は親鸞」と決めていたのは確かである。
*
そろそろ本腰を入れないといけないと思うようになったのは現役を離れてからで、いよいよと思つたのは肉親との別れである。父を六年前に、母を二年前に見送った。それからは気がつくといふ書を手にするようになった。最近「浄土真宗聖典（註釈版）」を傍らに置いてある。とても歯が立たない文書も多いが、気にしない。解るものから取り組んでいる。

このように私は仏教になじんで育ったわけではあるが、その後数十年は処世に明け暮れた。銀行の仕事は国際関係が中心で、留学と

思うに、信心というものは黙って座っていて相続できるものではない。自ら求める心が育たないと難しい。私の場合は肉親との別離で辛うじて「お念仏」だけは相続できたのではないかと思う。

この一冊

渡辺和子著 『置かれた場所で咲きなさい』 (幻冬舎)

相羽 顕 (会社役員)

二〇一六年の暮れに亡くなったシスター渡辺和子さんが遺した、輝く言葉の数々が込められた素晴らしい著書です。許すことの大切さを教えてくれました。

現実が変えられないなら、悩みに対する心の持ちようを変えてみる。「いい出会いにする為には、自分が苦労して出会いを育てなければならぬ」という著者の言葉に現実味があり、自分の実体験に基づいているので納得できます。

在家仏教協会 四つの信条

- 一、 釈尊の説法虚言ならずと信じていること。
- 二、 釈尊の説法の内容そのものは永遠の真理であるが、それを大衆に知らせる手段は、時と処と人に応じつねに新鮮でなければならぬと信じていること。
- 三、 呪術らしきものは一切排除すること。
- 四、 在家生活のまま仏教に生きようとしていること。

仏教と私

「もう一人の私」

匿名希望 (在家仏教協会会員)

雇用統計不正問題や障害者雇用の水増しなど、耳を疑いたくなるような不祥事が続いています。特に、中央官庁の障害者雇用の虚偽報告については、私も企業において実際に携わった経験があります。そこで、本当に理解に苦しみます。もちろん、企業の側としては与えられた目標は相当厳しい数字でした。しかし、障害者の就労訓練の施設を見学し、彼らが働いている姿を目にし、達成のためのモチベーションが上がったことを覚えています。それをまさか国が守っていないとは……。このような報道がなされるたびに、日本人は最近倫理観が希薄になってきたのでは、と心配になるわけです。

さて、人間は生きていくために社会を形成し、それを守るためにルールをつくってきました。それは、国家であれば憲法・法律であり、仏教教団であれば戒・律であるかもしれません。これらは、破つ

たものには制裁が加えられるわけですが、一方でそれらを内面化して自然に受け入れられるための知恵として、仏法や聖書などの言葉となつて、私たちの心の中に刻まれてきたのだと思います。ですから、私たちが欲望からこうしたいと思つても、「もう一人の私」が「いやそれは人間の生き方に反するからやめなさい」、といつて戒めてきたわけです。

それでは、不祥事がなぜ続くのでしょうか。昨今、日本は社会そのものが分断し、人間関係が希薄になつていと言われます。ルールそのものを教えてくれる人がいない、知識としては知っているが実体験がないなど……。ましてや宗教と接することも少ないため、それを気づかされる機会もないのだろうと思います。

宗教の教えには、人間として生きていくための「智慧」が詰まっています。悪いことをすれば、親のかわりに神が叱つてくれるかもしれないし、判断に迷ったときには法が道標を示してくれるかもしれません。宗教を学ぶことによつて内なる良心にもう一度目覚め、「もう一人の私」が過ちに待ったをかけることを望むこのごろです。

ご寄付のお願い

当協会は、東京、大阪にて講演会活動を行っておりますが、その多くは寄附金によって賄われております。講演会の存続のために温かいご支援をお願い致します。

協会への寄附金は税制優遇が受けられます。個人様からの寄附と法人様からの寄附について、事例を上げてご案内いたします。

★所得税 所得金額から「寄付金(所得金額の40%が限度)12,000円」を控除することができます。

事例 年中の総所得金額が500万円、寄附金の合計額が20万円の場合 20万円×2,000円÷19万8,000円が、総所得金額より控除されます。

★法人税 法人が支出する寄付金は、その法人の資本金等の額、所得の金額に応じた一定の限度額までが損金に算入されます。このとき、公益法人に対する寄付については、一般寄付金の損金算入限度額とは別に、別枠の損金算入限度額が設けられております。

事例

資本金が10億円、年中の所得金額が1億円の場合

- ① 一般損金算入限度額Ⅱ (10億円×2.5/1000) + (1億円×2.5/100) × 0.2 = 51125万円
- ② 別枠の損金算入限度額Ⅱ (10億円×3.75/1000 + 1億円×6.25/100) × 0.5 = 500万円

したがって、①②の合計額625万円の損金算入が認められます。

在家仏教通信

東京会場では4月より連続講演会「迷いからの脱出」を開催します

人間はだれでも心の底に迷いや不安を抱えています。悪魔とも無明とも呼ばれます。呪術や占い、そしてオウム真理教事件もそこから育ってくるのかもしれない。仏教はどう教えてきたか、ともに学んでいきましょう。

講師には、楠山泰道(大明寺住職)、山崎龍明(武蔵野大学名誉教授)、福田亮成(大正大学名誉教授)、田島照久(早稲田大学

時間論で考える「往生と成仏」 武田定光先生 (真宗大谷派因速寺住職)

私は浄土真宗の者で、親鸞の思想によつて人生が変わってしまった人間です。今日は『時間論で考える「往生と成仏」というテーマでお話したいと思います。こうした講演のテーマや、著書の題目は、自分が好き勝手に考えて付けるものでなく、へいま何が問われているかを感じているとき、向こうからやってくるものなのです。続く

原稿をお待ちしています

- ◇ 随想「仏教と私」(八百字以内) 人生を振り返つて仏教と出逢ったときの感動をお書きください。
- ◇ 読者からの手紙(八百字以内) 講演会(講演録)の感想などをお書きください。
- ◇ コラム「この一冊」(八百字以内) 感銘を受けた書籍を紹介してください。新刊だけでなく、思い出しの本も歓迎します。著者名、出版社名、発行年を忘れずに。

* 原稿用紙またはメールに添付して、左記宛てにお送りください。住所、氏名、電話番号、よろしければ職業と年齢もお書きください。読みやすくなるために、あるいは編集上の都合で、趣旨を変えない範囲で削ったり直したりする場合があります。採用分には薄謝をお送りします。原稿の送り先は、〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-3-202 在家仏教協会「いのち尊し」係。メールはkaminura@zaikbukkyo.comまで。